科目名称：	ゼミナールⅠ
担当者名：	薗森　喜美、藤元　宏一、三藤　加代子、瀬戸　就一、矢澤　建明、越野　裕美子、廣瀬　元、井戸　健敬、若月　博延、坂上　牧子、小原　慎平

区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1

授業の目的・テーマ

入学以降、ビジネス実務に関して幅広い学修を行い、ビジネス現場で役立つ知識や技能を身に付けてきました。ゼミナールでは、これまでに学んだ知識・スキルを活用し、少人数のチームで研究テーマを設定して教員指導の下で自発的な研究調査・課題解決を行うことにより、能力発揮の仕方を学んでいきます。また、後期の「ゼミナールⅡ」へ繋がっていくものにもなります。また、各教員の指導の下、ふれあいを通して有益な学生生活を送ることもゼミナールの大きな目的であることも付け加えておきます。

授業の達成目標・到達目標

「ゼミナールⅠ」では、後期の「ゼミナールⅡ」への準備段階として、「研究調査をするということはどういうことなのか」「自発的な研究調査・課題解決とはどうやっていくのか」をマスターしてもらうのが第一の目標です。実際に研究テーマに沿ってゼミ活動を行っていきます。最終週には小グループでの中間発表を実施します。中間レポートも執筆することで、自発的に考え、調査・行動する力を獲得することが次の目標です。なお、下記「授業の内容・計画」および「事前事後学修の内容」は、ゼミナールグループを担当する教員によって進度が異なります。

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、様々な価値観を持つ他者との良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	地域社会を理解し、様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化するビジネス社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	○
DP(3)	ビジネス実務の分野において、基礎知識を身につけるとともに、専門的な知識や技能を修得し、各種資格取得を目指して専門性を磨き、これらを柔軟に活用していくことができる。	

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 （レポート含む）	その他	合計
ビジネスDP(1)					0
ビジネスDP(2)			50	50	100
ビジネスDP(3)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容１》	《経験年数１》
	《内容２》	《経験年数２》
	《内容３》	《経験年数３》
	《内容４》	《経験年数４》

備考

到達目標ルーブリック	すばらしい(10)	よい(8)	あと少し(6)	がんばろう(4)
問題設定力	自ら問題を設定することができる。または、何が問題であるのかを論理的思考により設定できる。さらに、問題を記述し明確にできる。	自ら取り組む問題を設定することができる。または、何が問題であるのかを論理的思考により設定できる。	自ら問題設定をすることはできないが、何が問題かを明らかにできる。	何が問題か明らかにはできないが、問題設定の議論に加わることができる。
調査分析力	問題解決のために必要な分析できる能力があり、そこから新たな提案をすることができる。また、インターネットだけでなく、必要な文献を検索し、読解することができる。	問題解決のために、必要な資料さえあれば分析できる能力がある。インターネット等で必要な資料を集めることができる。	メンバーの一員として、分析に協力できる。	メンバーの一員として分析した内容を理解している。
共同作業力 ×２	グループのリーダーとしてまたはそれに準ずる役割を発揮し、研究・調査・制作を行い、まとめることができる。グループのスケジュールを調整し、遂行することができる。	グループのリーダーをサポートする役割を果たし、研究・調査・制作を行い、これをまとめることができる。	グループの一員として研究・調査・制作に貢献している。	グループの一員として研究・調査・制作の作業ができる。
実地調査力	自分ひとりでアンケート調査、インタービュー調査を設計することができ、さらにフィールドワークを実践できる。	グループ全体でアンケート調査、インタービュー調査を設計することができ、さらにフィールドワークを実践できる。	グループの一員としてアンケート調査、インタービュー調査を設計することができる。	フィールドワークの経験はないものの、各種調査をすることができる。

授業の内容・計画		事前事後学修の内容	事前事後学修時間（分）
第１回	各教員の研究テーマ・制作テーマを学生に説明、提示する。	各教員の研究テーマを熟読し、空き時間に希望教員を訪問する。	40分
第２回	配属になる担当教員・テーマを決定。	各教員の研究室を訪問し、テーマについて面談し、内容の理解を深める。	10分
第３回	各ゼミグループで課題解決学修の進め方を学修。	チームミーティングの準備。	10分
第４回	教員の提示したテーマを基に、課題明確化の議論を行う。	テーマについて、何を課題に研究していくか予習しておく。	30分
第５回	資料収集。	資料収集のための準備。	40分
第６回	インタビュー調査・フィールドワークの方法を学ぶ。	資料についての分析。	40分
第７回	インタビュー調査・フィールドワーク１	インタビュー調査・フィールドワーク１の準備	60分
第８回	インタビュー調査・フィールドワーク２	インタビュー調査・フィールドワーク２の準備。	60分
第９回	収集データのまとめと考察。	各自、報告用データをまとめておく。	60分
第10回	研究・制作など実施計画と方策の立案。	データを基に、各自研究方策について考えておく。	30分
第11回	研究・制作など方策の実施。	研究・制作などの準備。	20分
第12回	研究・制作など方策の実施。	研究・制作などの準備。	20分
第13回	実施のふりかえりと今後の課題を検討。	各自、実施のまとめを行う。	30分
第14回	結果のまとめを行い、中間発表会の準備をする。	中間発表会（パワーポイント等）の準備。	120分
第15回	結果のまとめを行い、中間発表会の準備をする。	中間発表会（パワーポイント等）の準備。	120分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、各ゼミ教員の方針にもよるが、準備などを小レポートにまとめることとする。

成績評価の方法・基準

定期試験は、 実施しない。　　その他の評価配分は、以下のとおりである。
活動状況５０％、レポート及び中間発表５０％。

課題に対してのフィードバック

活動の最終段階で、各ゼミナール担当より活動状況についてのルーブリック評価を返却します。

教科書・参考書

各ゼミナール担当教員の方から随時指定します。

中間発表ルーブリック	すばらしい(10)	よい(8)	あと少し(6)	がんばろう(4)
発表内容・構成（発表概要含む）	問題設定が明確であり、豊富な内容をきわめて論理的に構成して発表している。	問題設定が少しあいまいであるが、内容が豊富で論理的に構成された発表をしている。	内容は豊富であるが、問題設定があいまいで、構成が体系立てられていないまま発表している。	内容としての分量はあるものの、問題設定がなく、まとまりのない発表をしている。
スライド、図表・画像・映像など	プレゼン内容を補強するための図表・画像・映像などを効果的に使い、文章を多用せず、インパクトがあるスライドを作成している。	文章は多いものの、内容を支持する図表・画像・映像などを使っている。	図表・画像・映像をたまに使っているが、プレゼン内容を支持しておらず、文章中心のスライドをつくっている。	図表・画像・映像をまったく使わず、文章のみのスライドをつくっている。
発表姿勢	聴衆とアイコンタクトを保ち、大きな声でボディランゲージがあり、説得力がある。	聴衆とのアイコンタクト、十分な声量、ボディランゲージのうち、２つができていて、発表に説得力がある。	聴衆とのアイコンタクト、十分な声量、ボディランゲージのうち、１つができていて、発表に説得力がある。	聴衆とのアイコンタクトがとれず、声が小さく、ボディランゲージもない。
内容理解・質問応対	プレゼン内容を十分に理解して発表している。また、質問に的確に応え、かつ詳しく説明できる。	プレゼン内容を理解して発表している。質問に対してつまることもあるが、何とか説明できる。	プレゼン内容をよく理解せずに発表している。初歩的な質問には応えられる。	プレゼン内容の知識に乏しいまま発表している。内容に関する質問にうまく応えられない。
他の学生の発表を聴く者として	他の学生の発表を真剣に聴き、関心のある発表で積極的に質問している。	質問はできなかったが、他の学生の発表を真剣に聴いている。	質問することもなく、他の学生の発表をよく聴いていない。	他の学生の発表中に、うっかり居眠りをしている。

以下は昨年度の研究テーマ（前期）の参考例です。

●第１分科会（Ａ１０５）
・国際交流を楽しもう！
・カフェの魅力　～SDGsに貢献！？～
・緑がいっぱい！加賀の魅力✨
・白山検定対策サイトの改良　～過去問題の追加～
・秘書検定対策サイトの制作

●第２分科会（Ａ１０６教室）
・小学校プログラミング教育の現状　～ロボット・プログラミング講座計画～
・自動車の比較調査報告　～未来の自動車を見据えて～
・白山菊酒プロジェクト　～受け継ぐふるさとの思い～
・国造柚子の魅力を知ろう！　伝えよう！繋げよう！
・ふるさと野々市市プロジェクト　～ヤーコンを知ってもらおう～

●第３分科会（A１０７教室）
・百均の材料でキャンドル作り
・キャンドルイベント2023
・サマフェスキッズランド2023の企画について
・こどもたちといっしょに白山をもりあげる　～サマーフェスティバル白山こども屋台村～
・サイクリングで白山探検　～白山の魅力を発信～

●第４分科会（A２０５教室）
・海洋プラの危険性を知って未来と生き物を守ろう。
・ダンスで健康になろう！　～こども編～
・ダンスで健康になろう！　～中高年～高齢者編～
・私たちが教えるアロマ＆ハーブセラピー
・アロマについて知ろう

●第５分科会（Ａ２０６教室）
・地域を元気にする　～KARA旨グランプリ2023～
・地域を元気にする　～兼六園ガイド2023～
・スタンプラリーで地域交流
・能登PRプロジェクト～SNSとパンフレットを使って～
・加賀の魅力　Vlog